

強盗想定、職員が対応確認



拳銃や刃物を構えた犯人役に対応する職員ら
＝可児市桜ヶ丘、東濃信用金庫桜ヶ丘支店

東濃信用金庫桜ヶ丘支店で訓練

閉店後の金融機関に強盗が押し入ったという想定での防犯訓練が17日、可児市桜ヶ丘の東濃信用金庫桜ヶ丘支店で行われ、職員らが通

報手順や犯人への対応方法などを確認した。東濃信用金庫では、岐阜、愛知県の店舗でブロックごとに毎年訓練を行って

り、今回は対象となる可児、加茂、各務原地区の14店舗の各支店長ら職員約30人が参加した。

可児署員が扮した2人組の犯人役が通用口から押し入り、刃物を振りかざしながら拳銃を発砲、現金を奪って逃走するという想定で行われ、怒号や鳴り響く銃声に、職員らは緊張感を保持して対応した。

署員の指導で犯人の人相や、非常通報ボタンを押したかの確認のほか、店内の備品を用いた防衛法などの指導も行われた。署員は「2年前に多治見市で未遂事件が起きている。犯人は必ず下見をする。日頃の接客から防犯を意識して」とアドバイスした。

訓練は若松町支店(多治見市若松町)、稲津支店(瑞浪市稲津町)でも行われた。

(中村芳紀)